

第175回 原医研セミナーのご案内

下記のとおりセミナーを開催いたします。多数ご参集ください。

記

日 時：平成27年12月17日（木）午後4時～

場 所：霞総合研究棟 7階 701セミナー室

1. 演 題：筋萎縮性側索硬化症におけるオプチニューリンの役割
演 者：原子力災害復興支援研究センター
倉持 真人 特任助教

筋萎縮性側索硬化症（ALS）は、中枢神経系の運動ニューロンの障害が原因で筋肉の萎縮や筋力の低下を生じる神経変性疾患である。当研究室は2010年にALSの原因遺伝子としてオプチニューリン（OPTN）を同定した。その中でも劣性遺伝家系ではエクソン5の欠失やミスセンス変異 Q398Xを有し、OPTNがタンパク質レベルで欠損していることを明らかにした。そこで我々はOPTNノックアウトマウスを作製し、ALSの病態解明について研究した。本セミナーでは、現在までに得られた結果を報告する。

2. 演 題：Wnt5a 陽性乳癌の悪性度メカニズム
演 者：大学病院 乳腺外科 角舎 学行 講師

Wntシグナル経路には、①β-カテニンを介して遺伝子発現を制御するβ-カテニン依存性経路と、②PCP(planar cell polarity)経路、Ca²⁺経路からなるβ-カテニン非依存性経路とが存在する。Wnt5aは、β-カテニン非依存性経路の代表的なリガンドであり、JNKやRhoキナーゼを介して細胞運動や接着、細胞極性などに関与している。これまでに、Wnt5aは胃癌、悪性黒色腫、悪性リンパ腫の悪性度に関与していることが報告されていたが、乳癌におけるWnt5a発現の意義については明らかでない。我々は、乳癌におけるWnt5a発現と悪性度との関係を解析しており、乳癌病理検体を用いたWnt5a免疫染色により、①乳癌の約40%にWnt5aが過剰発現していること、②Wnt5a陽性乳癌はER陽性+HER2陰性乳癌(luminal type)と非常に強い相関があること、③Wnt5aの発現はリンパ転移や脈管侵襲、Ki67 labeling indexなど病理学的予後因子と相関していることを明らかにした。Wnt5a陽性乳癌の悪性度メカニズムについて、現在解析中である。

連絡先： 広島大学霞地区運営支援部総務グループ 082-257-1639（内線 霞6279）